

## 町営牧場の統合について

### 1 経緯

町営牧場（新嵐山牧場・光勇牧場）の統合については、令和6年度から管理委託先のＪＡめむろと協議を進め、令和6年7月に実施した「町営牧場の利用に関する意向調査」の中で、町営牧場の統合について調査したところ、賛成・どちらでもよいと回答された割合が、酪農家全体では91.4%、町営牧場利用者では88%であったため、令和7年10月27日（月）にＪＡめむろ本所で、町内乳用牛飼養農家に対する説明会を開催し、町営牧場の統合に関しては理解が得られてものとして、令和8年度から光勇牧場1か所で町内乳用牛を受け入れることで計画している。

### 2 町営牧場統合の目的

- (1) 牧場運営（経営）の健全化
- (2) 牧場職員不足の解消（緩和）
- (3) 牧場施設の老朽化等対応

### 3 町営牧場の現在の運営状況（別紙1）

- (1) 町営牧場 町内酪農家の利用状況
- (2) 光勇牧場の現状
  - ・参考図1（牧柵設置予定）
- (3) 新嵐山牧場の現状
  - ・参考図2（使用不可牧区、令和8年度以降電気柵設置及び掃除刈予定箇所、公社営事業施工箇所）
- (4) 牧場職員の確保
- (5) 令和元年度～7年度の町営牧場収支状況

### 4 町営牧場の統合による財政効果（別紙2）

町営牧場の統合に伴い、光勇牧場に事務所及び車庫（倉庫）の整備を検討中。

### 5 令和8年度～14年度までの牧場運営

令和6年度までの公社営事業による草地更新等のため、令和14年度までは「牧場」・「採草地」として管理する予定。

- (1) 「畜牛育成牧場管理及び使用条例」及び「牧野管理規程」の改正はしない。
- (2) 新嵐山牧場の維持管理
  - ①採草地（施肥・除草剤散布）
  - ②機械による掃除刈り
  - ③電気柵設置（ヒグマ・エゾシカ対策）など

### 3 町営牧場の現在の運営状況について

#### (1) 町営牧場 町内酪農家利用状況

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8計画
町内利用戸数	16	16	18	17	17	16	14	14
新嵐山	227	134	238	166	275	254	100	0
光勇	245	324	295	309	388	313	374	500
町内計	472	458	533	475	663	567	474	500
町外牛	133	159	108	104	79	138	0	0
合計	605	617	641	579	742	705	474	500

#### (2) 光勇牧場の現状

- ・牧場敷地全域の牧区が整備されていない。
- ・令和8・9年度において牧区（牧柵）の整備を計画している。
- ・令和7年度の当初入牧頭数は、新嵐山100頭、光勇牧場286頭の合計386頭であった。
- ・令和8年度において、町内牛については、光勇牧場で入牧受入可能と想定。

#### (3) 新嵐山牧場の現状

- ・土砂等の搬入で使用できない牧区がある。また、急傾斜で使用していない牧区がある。
- ・8月初旬には、牧場内の水源が枯れ、暫定的に給水管を布設した。
- ・水源が復活する見込みはない。
- ・新嵐山牧場のトラクター等の機械類は老朽化による修理・更新が必要なものが多い。
- ・牧場職員の高齢化により、急傾斜の多い新嵐山牧場では、事故等の発生も危惧される。
- ・令和5・6年度に公社営事業により、一部草地更新・暗渠排水等を施工しており、令和14年度末までは「草地」としての管理すべき土地がある。
- ・令和8年度から新嵐山牧場は、牛を入牧させずに、採草地として管理するとともに、掃除刈等を行い、維持管理していく計画である。

#### (4) 牧場職員の確保

- ・牧場職員の高齢化。
- ・人手不足により、牧場職員の確保が難しい状況が続いている。

## 3 町営牧場の現在の運営状況について

## (5) 令和元年度～8年度の町営牧場収支状況（計画）

## 収入

項 目	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
入牧料	20,465,424	20,344,738	22,872,564	20,313,722	28,311,998	27,076,192	18,475,314
衛生薬品費負担金	1,609,164	700,973					
牧草売払代						158,400	220,000
国庫補助金						915,313	
合 計	22,074,588	21,045,711	22,872,564	20,313,722	28,311,998	28,149,905	18,695,314

## 支出

項 目	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込
草地維持	肥料費	2,796,453	2,420,000				
	燃料費	882,463	600,852				
	薬剤費	70,332	22,000				
	機械利用料	174,150	39,600	158,840			191,000
	諸材料費	6,755,087	9,000,109	24,686,423	13,209,584	6,428,343	11,209,377
	機械修理費	4,644,791	3,635,068	1,123,837	2,082,300		
	その他	1,060,435	865,810	621,500		3,009,600	52,800
小 計	16,383,711	16,583,439	26,590,600	15,291,884	6,428,343	9,039,538	11,453,177
家畜管理費	家畜衛生費	2,254,092	934,670	348,911	308,818	433,713	367,436
	管理用資材	2,410,876	2,284,186				
	修理費	643,008	2,234,049				
	機械購入費					1,632,180	
	その他	155,480	156,200				
小 計	5,463,456	5,609,105	348,911	308,818	433,713	1,999,616	511,912
牧場委託料	管理委託料	20,267,752	20,861,000	34,027,000	38,170,000	38,742,000	39,215,000
小 計	20,267,752	20,861,000	34,027,000	38,170,000	38,742,000	39,215,000	40,050,000
諸雑費	通信費	68,977	68,774				
	光熱水費	375,003	473,141				
	保険料	474,645	583,090				
	公租公課	89,700	190,500				
	施設整備費			1,098,900	8,823,980	14,322,000	583,000
	その他雑費	565,993	465,600				
	負担金等			17,000	58,820	65,210	98,300
小 計	1,574,318	1,781,105	1,115,900	8,882,800	14,387,210	842,537	6,401,300
合 計	43,689,237	44,834,649	62,082,411	62,653,502	59,991,266	51,096,691	58,416,389

差 引	△ 21,614,649	△ 23,788,938	△ 39,209,847	△ 42,339,780	△ 31,679,268	△ 22,946,786	△ 39,721,075
-----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

## 4 町営牧場の統合による財政効果

## ●新嵐山牧場の運営を継続した場合の人件費比較（令和 8 年度予算要求ベース）

項 目	金 額	備 考
新嵐山牧場・光勇牧場（約8.5人工）	21,844,693 円	
光勇牧場（6.0人工）	15,571,218 円	
令和 8 年度	△ 6,273,475 円	の予算削減効果
令和 8～17年度（10年間）	△ 62,734,750 円	の予算削減効果

## ●作業車両の減少（購入当時の金額）

項 目	金 額	備 考
トラクター 8 号（CT-120UP）H16式	7,245,000 円	R8廃車
トラクター10号（JD6430）H20式	11,371,500 円	R10廃車予定
トラクター12号（ARION640）H27式	15,552,000 円	R17廃車予定
オートバイ 1 号 H25式	815,000 円	R7廃車
オートバイ 3 号 H27式	815,000 円	R8廃車
オートバイ 4 号 H27式	815,000 円	R8廃車
ダンプトラック（いすゞELF2t）H 7 式	6,283,000 円	R8廃車
牧場ジープ（パジェロ付）H12式	2,200,000 円	R7廃車
ブロードキャスター（東洋農機7-27）	269,850 円	R9廃棄予定
ブロードキャスター（ビコンROM1100）	708,750 円	更新なし
スプレーヤー（共立BSM130E）	283,500 円	更新なし
合計	△ 46,358,600 円	の予算削減効果

令和 8～17年度（10年間）

人件費・作業車両による削減効果額	△ 109,093,350 円	の予算削減効果
------------------	-----------------	---------

上記のほか、作業車両の減少による燃料費及び修繕費の減少が想定される。







